

佳作

わたしのもう一人のおじいちゃん

茨城県 高萩市立秋山小学校二年 花岡 ちひろ

わたしには、おとうとが二人いました。そして七月四日に三人目のおとうとがうまれました。

その日のあさ、おかあさんに、

「きょう、うまれるかもしれないよ。」

といわれ、たのしみだなと思いながら学校に行きました。

学校からかえると、おかあさんはびょういんに行っていて、おとうさんに、

「もうすぐうまれるよ。」

といわれて早くあいたいなと思いました。するとおかあさんからうまれたとれんらくがきました。どうがやしゃしんがおくられてきて、とってもちいさくてかわいいと思いました。でも、コロナのせいでびょういんにいけないのでかえってくるまでたのしみにまつことにしました。

おかあさんと赤ちゃんがかえってくるまでおねえちゃんときょうりよくして、家のことや二人のおとうとのめんどうをみたりしました。おかあさんからテレビでんわのとき一ばん下のおとうとがないてたいへんでした。なん日かたつとおちつきました。そしてついに、おかあさんと赤ちゃんのたいいんの日がきました。かぞくみんなでおかえに行きました。

赤ちゃんをだいたおかあさんがびょういんからでてきました。そしてしゃしんでは、さわったりすることができなかつたけどやっとできました。家につくときだっこをじゅんばんにさせてくれました。じぶんのばんがくるとだっこをしながらかんどうしてないてしまいました。やっとあえたなとおもいました。

そして五人きょうだいになりました。なんかいい見てもかわいいなと思いました。わたしは、おねえちゃんなのでおてつだいやおとうとたちのめんどうをみたり、がんばりたいと思いました。

うまれてきたおとうともすこしずつせいちょうしてきて、赤ちゃんをだっこしているうでがだんだんいたくなってきました。それでも、かわいくてついついだっこしてしまいます。

赤ちゃんをうむのもそだてるのもたいへんだけど、

じぶんがおとなになったときにやくにたつようになんばりたいです。